

## タスマニアで見た自由と多様性：日本の教育との比較

香川県立丸亀城西高等学校

普通科2年 前田康太郎

私は以前から、海外の教育事情に非常に興味があります。そこで、今回の研修では、タスマニアと日本の教育の違いについて調べたいと考えました。

私が訪れたホバートカレッジは、11年生と12年生のみが在籍する公立高校で、生徒たちは私服を着て、イヤホンで音楽を聴きながら授業を受けるなど自由なスタイルで学んでいます。髪の色や長さ、ピアスなども自由で、校則が厳しい日本の高校とは対照的です。生徒はみな笑顔が素敵で、学校生活を楽しんでいる様子が印象的でした。

私は、生徒の生の声をたくさん聞いてみたいと思い、積極的に話しかけました。交流する中で感じたのは、タスマニアでは、日本のように全員が同じレベルを目指す教育ではなく、それぞれの能力に合わせた教育を行っているということです。

特徴的な事として、この学校には入試が無く、地域住民なら誰でも入学できます。生徒の背景や進路は多様で、自分の興味や将来の夢に応じて科目を選ぶことができます。なんと100を超える選択科目があり、生徒たちは自分の本当に学びたいことを追求できるので、非常に意欲的です。例えば、調理師を目指すコースでは、校内でレストランを営業し、実際に調理や経営を学ぶことができます。自分の夢に向かって専門的に学んでいる姿はとてもうらやましく、刺激になりました。

また、先生と生徒の関係も、日本よりもフレンドリーで、生徒はわからないことがあると、その場ですぐに質問し、先生たちは生徒をサポートする存在として寄り添い、何度でも丁寧に答えていました。

以上のような環境が、生徒の学ぶ意欲や個性を引き出し、将来の進路や夢が明確であることにつながっていると感じました。

この研修を通じて、タスマニアの教育の自由さと生徒たちの主体的な学び方を知り、日本の教育との違いを実感しました。また、タスマニアの先生や生徒から、日本の給食や掃除の文化などを驚かれたことから、改めて日本の教育の良さにも気づくことができました。今回、念願だった海外研修に参加できたことは、私にとって大きな自信になり、将来、世界で活躍できる人になりたいという気持ちがより強くなりました。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



▲7月31日留学生クラスでパラパラ漫画を紹介している様子